

巻頭言

1年を顧みて

昭和35年も余日少なくなってしまった。最近の畜産の発展は洵に目覚ましいものであり、本県も亦その中であって特に目立った存在であることは、お互いに慶ばしいことである。

1年を顧みると各種の問題があったが、何んとしても大きな点は惣津課長の転出であって畜産界の元老であり、今日の岡山県の畜産を基きあげた人だけに、おしいことであつたと思う。

仕事の面では第1回の枝肉共進会を大阪で開催したり、県営屠殺場と枝肉市場の計画を進めて、将来の肉畜の振興を図ったり、グリーンプランを作つて飼料自給の確立を図り、県酪連の牛乳の共販制を実施して乳価格の安定を行なったり、和牛の生産基盤を設定して和牛生産県としての生産増強を図るなど、その問題を採り上げてみても抜本的な大計画ばかりであつて、これ等が総て実行にうつされ、着々と効果を挙げていることは本県将来のために大いに慶んでよいことであると思うのである。

他面和牛試験場は創立40周年の記念式典を挙行したり、県共進会は10年振りに県南地区和気で行なわれ、南部の畜産振興に役立ったり、酪農試験では冷凍精液の本格的な利用を開始して人工授精の発展と相俟って、改良増殖に一段の力を発揮することになったわけである。

一方家畜の伝染病は牛の流感の発生が心配されたために全力を挙げて予防対策を行った甲斐があつたか、幸いにして発生を見ないで終つたが、年末押迫つて豚コレラの発生を見たことは洵に残念なことであつた。

何はともあれ今年は牛価も高く、畜産物価格も高く、消費の伸びも良く、畜産にとっては全く有難い歳であつたと思うのである。畜産関係各位と共に感謝を以つてこの歳を送ると共に来年は更に大きく飛躍したいものである。